

令和 4 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 9	学校名	県立下妻第一高等学校附属中学校					課程	—		学校長名		渡 邊 剛				
教頭名	近 松 香 織										事務（室）長名		佐 藤 房 雄				
教職員数	教諭	6	養護教諭	1	常勤講師		非 常 勤 講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手			事 務 職員		技 術 員 等	1	計	12
生徒数	1 年				2 年				3 年				合計				合 計 クラス数
	男		女		男		女		男		女		男		女		
	20		20										20		20		1

2 目指す学校像

【目指す学校像】 様々なことに挑戦でき、自己の可能性を広げられる学校
【育てたい生徒像】 社会の発展に貢献し、よりよい未来を切り拓くリーダーの育成
○ よりよい未来の創造に向かって能動的に挑戦し、心身ともにたくましく成長する生徒
○ 教養があり、知性と感性をバランスよく備え、地域社会および国際社会の発展に貢献できる生徒
○ お互いの違いを認め、それを尊重しながら他者と協働できる生徒
○ 科学的な観察力をもち、身に付けた判断基準を根拠に行動できる生徒

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	探究的な学びが基盤となる授業「下高楽習スタイル」では「分からない」を大切に、「なぜ? どうして?」を授業のキーワードとした課題解決型授業を実践している。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、双方向可能なアプリを導入するなどのICT機器の効果的な活用を行っている。 定期考査は実施せず、単元ごとのテストとその後の個別面談を実施することで、生徒自身が、自分の学習状況を把握したり課題を見つけたりして、学習のPDCAサイクルを見直す機会を作っている。	55分授業と授業時数増(国語・数学・英語・理科)、また少人数授業展開やTTによる授業を積極的にいながら、「下高楽習スタイル」の実現とよりよい人間関係の構築も含めたきめ細やかな学習指導が求められる。 ICT機器を効果的に活用することで学習の個別最適化を図ることが重要である。また、協働的な学習活動の中で、自分の考えや意見を論理的に表現することができる生徒の育成を目指す必要がある。 単元テストとテスト後の面談をととして、生徒が学習のPDCAサイクルを見直す指導を行う必要がある。
生徒指導	ほとんどの生徒が高い規範意識をもっており、社会的場面、特に対人関係において高いコミュニケーション力を見せている。 自分なりの目標をもつ等、高い自立心が見られ、正しい判断力のもと行動しようとしている。また、ほとんどの生徒が規則正しい生活をおくったり、きちんと挨拶をしたりするなどの基本的生活習慣が身に付いている。 生徒が授業や日常生活の中で、自分自身のスマートフォンやパソコンをもち、それらを使用する場面が多くなっている。	基本的な学校生活において意識すべき社会規範を共有し、それに基づいて生徒自らが考え、行動し、振り返ることのできる機会が必要である。特に対人関係において、他者を尊重する気持ちをいかに行動面で示すかと言う、生徒の非認知能力の育成が重要である。 自分で設定した目標が達成できないことで自己肯定感が低下したり、悩みを抱えてしまったりすることで、登校ができなくなることも考えられるため、教師が「生徒一人一人を大切に」と言う考え方をもち、面談や生活アンケート等をととして、SOSを出したり相談したりしやすい雰囲気作りを行う必要がある。 生徒が自分のスマートフォンやパソコンを所持し、SNSやオンラインゲーム等を利用し始める時期を迎えることから、一般的な情報モラルについて、また基本的生活習慣の確立・維持に差し障りのない使用のあり方についての指導や社会の一員としての責任やマナーを身に付けさせる指導が必要である。
キャリア教育	コロナ禍により、職場体験等の校外における体験活動や交流活動等の実施が難しい状況となり、生徒の職業観や勤労観を育成する機会が乏しい。	生徒が小学校・中学校・高校まで、組織的かつ系統的に自分の将来の夢や希望、目標に向かってキャリアを積み重ねることができるよう、キャリア・パスポートの活用を行う必要がある。 実践的な体験活動や交流活動のもち方の工夫をととして、キャリア教育の充実を図ることが求められる。
特別活動	多くの生徒が自立心をもち、主体的に活動に取り組んでいる。また、集団の一員としての自覚をもち、協働で活動を行うことができる。他者に対して尊重する気持ちをもち、進んで仕事を行うなどのボランティア活動の意義を理解している。	ホームルーム活動、学校行事、部活動への参加等の活動を通して、他者理解や協働性を高めることが重要である。また、高校生との合同による活動等の異年齢交流をととして社会性と集団の中での責任やマナーを養う場面を意図的に取り入れる必要がある。 コロナ禍により、体験活動や交流活動の実施が難しい状況にあるため、学校行事を精選し、効果的に体験活動を行うことが重要である。

別紙様式 1 (中)

働き方改革	開校した今年度は、様々な場面において職員同士の打合せや準備、生徒や保護者との人間関係づくり等に時間がかかる。	職員全員で、課題解決にあたる。また、適切な役割分担と連携のある組織づくりを行い、チームが機能的に働けるような体制を構築し、働き方改革につなげていくことが重要である。 バーコードによる勤務時間の視覚化をとおして、効率的な働き方について、職員の意識の向上を図っていく必要がある。
-------	--	--

4 中期的目標

1	「探究的な学び」を基盤とした、主体的・協働的で深い学びの実現を図る。 ※ 総合的な学習の時間における「探究活動×国際教育」の充実 ※ 1人1プロジェクトの実践
2	生徒の疑問から始まる課題解決的な学習や協働活動を取り入れた「下高学習スタイル」をとおして、確かな学力の育成を図る。
3	適切な生徒理解に努め、体験活動や交流活動をとおして、豊かな人間性の育成を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
協働的・探究的な学びの充実 「為桜 CHS メソッド」の実践	①「下高学習スタイル」である、「分からない」を大切にし、「なぜ？どうして？」を授業のキーワードとした課題解決型授業を実践する。 ②少人数授業展開やTTによる授業を実践することで、人間関係も含めたきめ細やかな学習指導を行う。 ③1人1台端末やICT機器の積極的な活用、また図書館の活用をとおして、主体的・協働的で深い学びを実践する。 ④相互授業参観や各種研修会への参加を積極的に行うことで、学習指導方法や学習評価（観点別評価）方法など教員間の情報交換を積極的に行う。 ⑤教科横断的な「探究活動」を主軸におき、生徒の探究的な学びを推進し、学力向上と主体的に学習に向かう態度を育てる。
基本的な生活習慣の確立と自主的、自立的な態度の育成	⑥挨拶や生活のきまり、礼儀やマナーについてホームルーム等で適時指導を行い、附属中生としての基礎的な生活習慣の定着を図る。 ⑦各委員会活動、係活動を充実させ、生徒が主体的に取り組める行儀を企画し、自主的、自立的な態度を育成する。 ⑧生徒が主体的に取り組めるよう、課題解決型授業を積極的に実践していくとともに、生徒の実態に合った学習習慣の定着を図る。 ⑨探究プロジェクト関連行事を通して、社会に適応できる力（コミュニケーション力、実行力、発信力、創造力等）、豊かな人間性を育む。

別紙様式 1 (中)

	⑩高校生との異年齢交流を推進し、自立心とリーダー性を育てる。 ⑪給食指導や食育をととして、基本的な生活習慣と健康的な心身の育成に努める。
特別活動の充実	⑫自ら考え、自ら行動する活動の充実を図る。 ⑬学校行事等を通して、他者理解を深め、人間性や社会性の育成を図る。 ⑭クラス運営に必要な組織をつくり、適切な役割分担ができる活動の充実を図る。 ⑮積極的な生徒会活動、部活動への参加を促進する。 ⑯キャリア・パスポートの活用をととして、小中高と継続的なキャリア形成を支援する。 ⑰体験活動や交流活動をととして、自分の生き方について考える機会を設ける。
広報活動の推進と地域との連携	⑱生徒の活躍する場面の発信等を掲載した学校ホームページを充実させる。 ⑲生徒が中心となった小中連携や中高連携、学校説明会や学校公開における内容を充実させる。 ⑳下妻市役所や地元企業、大学等との連携をととした学習活動を実施する。 ㉑学校評議員会、PTA、同窓会等との連携の強化と情報公開に努める。 ㉒高校との異年齢交流を推進する。 ㉓卒業生や地域の方々、外部機関との交流を図り、自分の生き方やキャリアについて考える力を養う。
働き方改革の推進	㉔学校全体で協議し、業務の精選を行い、事業の削減に努める。 ㉕ICT機器を効果的に活用し、情報伝達や共有を図る。 ㉖在校時間を管理し、時間を意識した働き方の改善を推進する。 ㉗適切な役割分担と職員間の連携を推進し、責任と権限の明確化を図る。

為桜CIISメソッド

- | | | |
|-----------------------------|------|---|
| (1) Class | 授 業 | 「下高染習スタイル」課題解決型授業の実施 |
| (2) Inquiry Activity | 探 究 | <p>① ゼミ型教養講座の実施（年間4単位の実施 約10ゼミ開講） 生徒の教養を深める。</p> <p>② グループ課題探究</p> |
| (3) International Education | 国際教育 | （月2時間 総合的な学習の時間） 国際理解＋オンライン英会話 |
| (4) School Life | 学校生活 | <p>① 学校行事の充実 異年齢交流（定期戦・為桜祭・為桜OP）における運営への参加</p> <p>② 他校との交流（小中、中高交流）</p> |